

akane.

あかね

vol.39
2018 Summer

医療を通じて人と地域を結ぶメディカル情報誌

Close up **土谷総合病院 整形外科**
手の外科領域の高度な医療技術を提供

Topics **リハビリテーション室**
術後の早期復帰・回復をサポート



2018年5月18日、(株)メディカルノートの取材を受けました。メディカルノート (<https://medicalnote.jp/>) は、2015年3月にスタートした、インターネット上の医療情報メディアで、多くの学会・病院・医局と連携し、その分野の第一人者の先生方にインタビューして、患者様に向けてわかりやすく信頼できる医療情報を発信しています。ユーザー数が増えてきて、ユーザーからの「自分の生活圏にはどのような病院があって、どのような医療を受けられるのか？」という疑問に答えるべく、日本各地で取材を行い、今では、病気の解説、医師紹介、病院情報等が掲載されています。広島県の病院もすでに紹介されています。

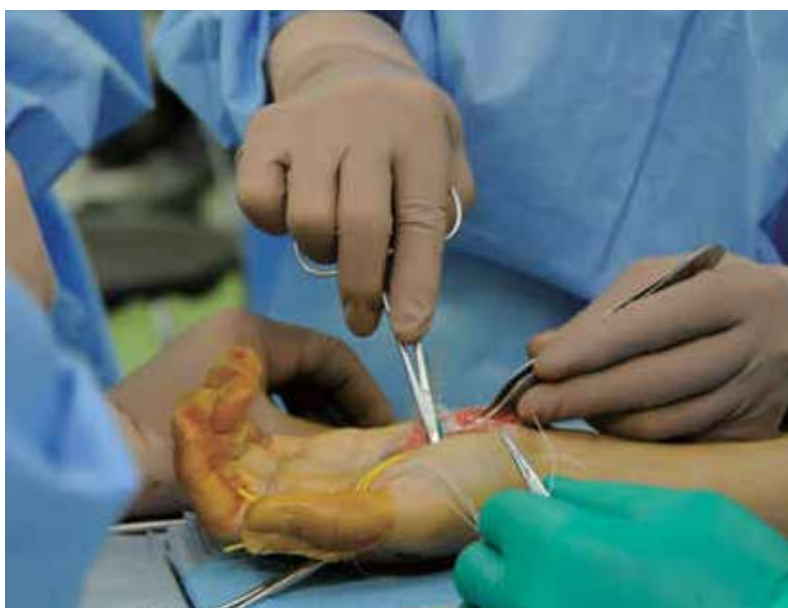
「患者様はどちらから来院されますでしょうか。」という質問がありました。循環器内科、心臓血管外科、人工臓器部（腎疾患）、外科（甲状腺がん）、整形外科（手の外科）、放射線科（下肢動脈血管拡張術・ステント留置術）等、広島県内だけでなく、広島県外からも多数の患者様が来られています。川西秀樹副院長のもとには、海外から患者様が来られています。川西先生は、今まで、腹膜透析の合併症である被嚢性腹膜硬化症の患者様243名の手術を行っておりますが、外国から3名（米国・イスラエル・台湾）、国内では北海道などの広島県以外の都道府県から215名の患者様が来られました。広島県内の患者様は25名です。被嚢性腹膜硬化症は、腹膜透析合併症の中でもっとも重篤な致死の合併症で、腹膜全体が厚くなり、腸が動かなくなり、進行すると腸が癒着し、腸閉塞になることがあります。

「他の病院ではなかなかない事例がありましたらお教え願います。」という質問もありました。（医）あかね会では、1997年10月、広島手の外科・微小外科研究所を開設しています。初代所長は、故津下健哉広島大学名誉教授、2代目所長は生田義和広島大学名誉教授、現所長は、木森研治整形外科部長で、診療は土谷総合病院で行っております。上肢の障害に悩む患者様のことを第一に考える施設で、上肢の外科に関する情報収集や、手の治療に関する研修を希望する医師・療法士等にその機会を提供するなど、幅広い分野で手の治療・研究を展開しています。今まで、日本全国から、29名の整形外科医（うち28名広島県外）、7名の作業療法士（うち5名広島県外）が、研修に来られました。

医業等に関する広告については、医療法第六条の五で規定されています。従来、医業に関する広告は厳しく規制される一方、医療機関のウェブサイトは、原則、広告として取り扱われない状態でしたが、2017年6月の医療法改正で、「広告」から「広告その他の医療を受ける者を誘引するための手段としての表示」に拡大され、医療機関等のウェブサイト等についても、虚偽・誇大等の不適切な表示を禁止し、中止・是正命令及び罰金を課すことができるよう措置される等の改正が行われました。この医療法改正は、2018年6月1日に施行されています。現在では、一定の広告については一律禁止されているものの、患者様が求める詳細な診療内容等の情報の円滑な提供が妨げられないように、一定の条件下に、広告可能事項の限定が解除されています。



Close up
土谷総合病院
整形外科



手の外科領域の高度な医療技術を提供

整形外科は現在、常勤医師3名と他施設からの手外科研修医1名の計4名で診療を行っています。当科は日本整形外科学会認定研修施設、日本手外科学会認定基幹研修施設に認定されており、上肢・下肢・脊椎の疾患すべてに対応可能で過去20年間の手術症例は10596例。内訳は上肢（手・肘・肩関節など）の手術が9182例と86%を占め、次いで下肢1106例、脊椎308例（下肢・脊椎の手術は一部他施設と連携あり）などとなっています。なお、手術前後のリハビリは9名の理学療法士、4名の作業療法士と緊密に連携を取りながら行っており、早期の機能回復を目指しています。

【整形外科スタッフ】

木森研治 (S56年卒) 部長

専門領域：手・肘関節外科、微小外科

広島手の外科・微小外科研究所所長

医学博士

日本整形外科学会専門医

日本手外科学会専門医

日本リハビリテーション学会専門医

日本リウマチ学会専門医

日本体育協会公認スポーツドクター

小林孝明 (H5年卒) 医長

専門領域：膝・足の外科

医学博士

日本整形外科学会専門医

日本体育協会公認スポーツドクター

日本医師会認定健康スポーツ医

日本職業災害医学会労災補償指導医

日本骨粗鬆症学会認定医

吉塚将昭 (H19年卒) 医長

専門領域：手・肘関節外科

医学博士

日本整形外科学会専門医

佐々木淳 (H22年卒) 手外科研修医

日本整形外科学会専門医

当科で取り扱う代表的疾患について

■手・肘関節の外科

1) 過去5年間に手・肘関節の手術を行った 2136例の内訳を表に示します。

骨折、脱臼、靭帯損傷	440例
末梢神経損傷・障害	313例
関節疾患（変形性関節症、骨・軟骨障害、関節リウマチほか）	274例
炎症性疾患（腱鞘炎ほか）	269例
腫瘍及び類似疾患	163例
腱損傷	59例
先天異常	49例
創傷処理、植皮、皮弁移植、抜釘ほか	569例
	2136例



最も多い疾患は手指、手・肘関節の骨折や脱臼、靭帯損傷で、次は手根管症候群、肘部管症候群といった手関節・肘関節部での神経の圧迫障害や外傷による神経損傷です。関節疾患は加齢による手指の変形性関節症やスポーツによる骨軟骨障害（TFCC損傷や離断性骨軟骨炎などの野球肘）が多く、ここ数年でその数は増加しています。炎症疾患で多いのは手指や手関節の腱鞘炎で、腫瘍は良性腫瘍が大多数を占めます。腱損傷は外傷によるもののほか、変形性関節症や関節リウマチによって生じる皮下断裂も含まれます。先天異常は母指多指症、母指欠損・形成不全、合指症、短合指症、屈指症が対象となっています。

2) 特色

1. 手・肘関節の疾患すべてに対し高度な医療が提供可能。
2. 微小外科（マイクロサージャリー）手技を導入して先天異常手の手術のほか、上肢の微細な血管や神経の修復・再建、切断された手指の再接着、失われた皮膚や骨・関節・筋肉・手指などの再建を行っており、いずれも高い成功率を獲得している。
3. 手関節部の骨折、TFCC（三角線維軟骨複合体）損傷、肘関節の骨棘障害や関節内遊離体などには、関節鏡を用いた小切開による体への負担の少ない手術「最小侵襲外科手術」を積極的に行っている。
4. リウマチ性疾患による複雑な手指変形の矯正、断裂した腱の修復や再建、高度に破壊された関節の形成術（人工関節置換を含む）なども実施可能。
5. 手や肘関節の治療で良好な機能回復を獲得するためには、手術はもとより一貫した指導の下でのリハビリの実践が非常に重要である。当科では治療開始から終了時まで、担当医と作業療法士が協力して個々の患者さんにとっての最良のリハビリを提供できるように努めている。
6. 治療方針決定のために必要な特殊検査（CT、MRI、超音波エコー、血管造影、血流測定、神経伝導速度検査、筋電図など）は当院ですべて実施可能。
7. 手術に必要な麻酔のうち全身麻酔は4名の麻酔科医が乳幼児から高齢者まで対応している。上肢の神経ブロック麻酔や局所麻酔は経験豊富な整形外科医が安全、確実をモットーに実施している。

広島手の外科・微小外科研究所



故 津下健哉先生
（初代所長）



生田義和先生
（二代目所長）

この研究所は、土谷総合病院整形外科と連携してハイレベルな手・肘関節疾患の診療を行うとともに、上肢（主に手・肘関節）の外科に関する情報収集と発信（診療、教育に必要なスライドやビデオの作成、文献や書籍の収集、手や肘に使用されるスプリントと手術器具類の収集と展示等）、国内他施設からの手の治療に関する研修を希望する人達にその機会を提供するなど、幅広い分野で手の治療・教育・普及活動を行っています。これまで日本全国から受け入れた手外科研修医ならびに見学者は29名で、手外科の基礎と臨床について教育・指導を行ってきました。現在も1名研修中です。



手の模型・装具コレクション

■ 膝の外科

1) 高齢者の膝の疾患

代表的な疾患は変形性膝関節症や骨壊死などであり、当科では人工関節置換術や関節鏡視下デブリドマン（関節の中を掃除する手術）などを行っています。人工膝関節置換術は年をとって膝関節の表面を覆っている軟骨が摩耗してなくなってしまった場合に適応となります。手術に際してはできるだけ安全に手術をするために、手術前後に下肢のエコー検査を行い、術後に発生する下肢静脈血栓症の早期発見と治療に役立てています。当院には信頼できる循環器内科の医師がおり、血栓症にも迅速に対応してくれるため安心して手術が行えます。関節鏡視下デブリドマンは年をとって痛んできた半月板や軟骨をきれいにする手術です。当院では2015年に新しい関節鏡のシステムを購入し、明るい視野ときれいな画像の下での関節鏡手術が可能となりました。また手術をしない足底板を使用した治療法やヒアルロン酸の関節内注射など色々な治療方法があるので一度ご相談下さい。

2) 膝のスポーツ障害

スポーツ障害としては半月板損傷、前十字靭帯損傷、離断性骨軟骨炎、タナ障害などがあり、ほとんどの手術が関節鏡視下に行うことが可能となっています。スポーツ障害では復帰時期などに問題を抱えた患者さんがいらっしやいますが、できるだけ安全に、しかも早期に復帰できるように努力しています。小林はこれまで1000例近くの膝の手術を行っており、安全で効果的な治療法を患者さんと一緒に考えていきたいと思っています。



人工膝関節置換術 術前



術後

■ 足の外科

足や足関節の疾患としては、外反母趾や足関節外側靭帯損傷、足関節離断性骨軟骨炎、変形性足関節症などを取り扱っています。外反母趾はまずは装具を使用した治療や靴の指導などを行っており、それでも治らない症例に関しては手術を行うこともあります。手術は現在、母趾の根元の骨（中手骨）を切る方法が主流ですが、当科では骨を切らずに外反母趾を矯正する手術を行っています。この方法は術後早期から歩行することが可能で良い方法だと考えています。また足首の捻挫（外側靭帯損傷）もよくある疾患です。新鮮例で損傷程度の軽い症例には装具を使用した治療を選択しますが、損傷がひどい場合には靭帯修復術を行います。受傷から長時間経過した症例には靭帯再建術を行っています。足部や足関節は歩くための基盤となる部分です。足部や足関節に痛みを感じるようであれば一度ご相談下さい。

超音波エコー検査

超音波エコーというと妊婦検診や内科検診をイメージされる方が多いかと思いますが、整形外科領域では対象となる組織が体表に近いため従来のエコーで得られる画像は不鮮明で検査機器としてあまり使われていませんでした。しかし、近年機器の改良により体表に近い浅い領域も鮮明な画像が得られるようになり、整形外科領域での画像診断の一つとして普及してきています。超音波エコーは、靭帯や筋腱、神経などのレントゲンでは写らない軟部組織の損傷診断、腱鞘炎や関節炎の診断などに利用可能です。またこの検査装置は患部の動きを動画で観察できるとともに、画像を見ながら関節内注射や神経ブロックを行うことで、より正確な薬液の注射が可能となります。当科でも数年前より外来に体表用のエコー装置を導入し、日々の診察に活用しています。





Topics

リハビリテーション室



術後の早期復帰・回復をサポート

1997年の整形外科拡充と同時に理学療法士1名で開設されたりハビリテーション室は現在スタッフも大幅に増え、理学療法士9名（育児休暇2名を含む）、作業療法士4名となっています。施設基準も運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）、廃用症候群リハビリテーション料（Ⅱ）を獲得し、早期離床、早期社会復帰を目指したりハビリテーションを提供しています。昨年には地域包括ケア病棟の開設に伴い、在宅の生活に即した動作訓練や寝たきりにならないための運動指導なども積極的に行っています。

ここでのリハビリは整形外科医の処方日开始されます（心臓リハビリを除く）。処方される疾患は整形疾患ばかりでなく、消化器疾患や腎疾患治療後のいわゆる廃用症候群や新生児、小児疾患など多岐にわたります。そのため毎朝、整形外科スタッフとの合同カンファレンスを行い、患者の病状にあたりリハビリの進行がなされているか、経過に問題がないかなど、処方医とリハビリスタッフで再検討し、質の高い安全なリハビリを提供しています。



廃用症候群とは

病気やけがなどで、長期間安静にしていることによって起こる弊害の総称。筋肉・骨組織の萎縮、関節の拘縮、心肺機能の低下、意欲の低下、床擦れなど。特に高齢者においては、寝たきりの原因となることが多い。生活不活発病ともいわれている。

理学療法士の仕事内容

変形性関節症やスポーツ障害に対する膝や足関節の手術、腎疾患に合併した下肢の骨折手術、脊椎手術などの術後理学療法を主に行っています。早期の社会復帰を図るため、術後管理を行いながら寝返りや立ち上がりなどの基本動作練習を行い、引き続き歩行や階段昇降など日常生活動作訓練を行っています。自宅への早期退院が難しい方や長期間のリハビリテーションが必要な方には、安心して退院の準備ができるよう地域包括ケア病棟を活用することもあります。患者さん御本人や御家族の状況に応じて、住宅改修や杖・車椅子選定のアドバイスなども行っています。退院後にできる限り自立した日常生活を送ることができるよう取り組んでおります。



作業療法士の仕事内容

手・肘関節外科疾患に対するリハビリテーション（いわゆるハンドセラピー）を行っています。治療対象は上肢の外傷（骨折、脱臼、腱・靭帯・神経の損傷など）、手根管症候群や肘部管症候群などの神経障害、手指の腱鞘炎、手指・手関節・肘関節の変形性関節症、リウマチ、スポーツ障害など。ハンドセラピーは各疾患の特徴や個々の症状に合わせて関節可動域改善運動や筋力強化、物理療法、スプリント療法などを行って手の機能回復を図るとともに、様々な器具を用いて手を使っていただくことで患者さんが日常生活、仕事、スポーツや趣味活動に復帰できるよう目指します。

手術を受ける患者さんには術前から担当の作業療法士が一貫して関わり、術前評価（関節可動域や筋力の測定、知覚検査など）の実施、手術や術後処置の見学などを経て術後リハビリに臨みます。毎朝の整形外科スタッフとの合同カンファレンスでは、整形外科医と密に連絡をとりながら治療方針を随時確認し、リハビリ内容や治療過程を細かく検討します。術後に起こり得るリスクの把握に努め、ギプスやスプリントなど外固定の正しい着用方法や手の使い方や管理方法を含め、適切なリハビリテーションを提供できるように心がけています。

リハビリテーションは地道な訓練の継続が必要で決して楽な作業ではありませんが、作業療法士が患者さんと目標を共有して治療へのモチベーションを維持してもらえるように取り組んでいます。また、院内での勉強会、院外での学会や研修会への参加を通して、より良いリハビリテーションを模索し、患者さんの治療に還元できるように努力しています。我々、土谷総合病院リハビリ室の作業療法士は、患者さんにとって非常に重要な「手の健康」に携われることに、誇りと責任を感じながら、日々働いています。





地域連携医紹介

地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、医療技術の向上を図ります。

医療法人 川口クリニック

診療科目 / 内科・呼吸器科・消化器科(胃腸科)・外科・
肛門科・リハビリテーション科・心療内科

かわぐち まさはる
院長 川口正晴

西区庚午に開院して14年になります。太田川放水路より以西の西区には総合病院がないため、小さなお子さんから100歳近い人生の大先輩まで、外科・内科系を問わず受診されます。ときに遭遇する重症・悪性疾患を見逃さないように気を配ります。地域かかりつけ医として適切な医療を行うように心がけ、現在3名の医師で診療しております。土谷総合病院は専門性の高い先生方・スタッフの方々が多数おられ、困ったときにはいつも快く相談や紹介を引き受けて頂いております。



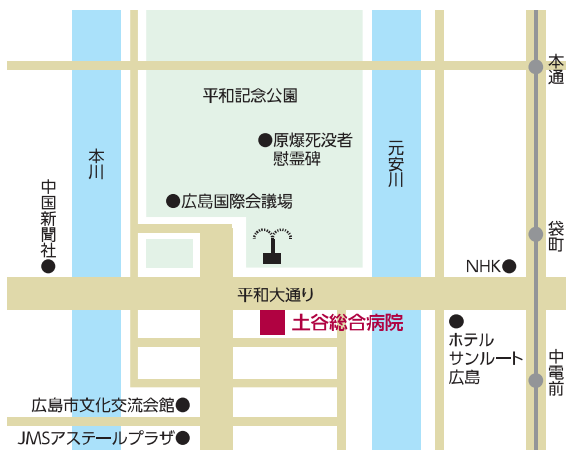
診療時間 / 9:00~13:00, 14:30~18:00(木曜・土曜日は午後休診)
休診日 / 木(午後)・土(午後)・日曜・祝日

住所 / 〒733-0822 広島県広島市西区庚午中3-6-11
TEL / 082-274-6655 FAX / 082-274-6650

医療法人あかね会

土谷総合病院

〒730-8655 広島市中区中島町3番30号
TEL:082-243-9191(代)



在宅事業部(介護サービス部門)

土谷訪問看護ステーション

光南 TEL:082-544-2789 西広島 TEL:082-507-0855
大町 TEL:082-831-6651 出汐 TEL:082-250-1577
佐伯 TEL:082-925-0771

土谷ヘルパーステーション

光南 TEL:082-545-0311 西広島 TEL:082-507-0877
大町 TEL:082-831-6654 出汐 TEL:082-250-5080
佐伯 TEL:082-925-0770 戸坂 TEL:082-502-5205
可部 TEL:082-819-2250 矢野 TEL:082-820-4825
阿品 TEL:0829-20-3585

土谷居宅介護支援事業所

光南 TEL:082-504-3202 西広島 TEL:082-507-0866
大町 TEL:082-831-6653 出汐 TEL:082-250-3730
佐伯 TEL:082-925-1550 戸坂 TEL:082-502-5215
矢野 TEL:082-820-4835 阿品 TEL:0829-20-3721

土谷デイサービスセンター

光南 TEL:082-544-2885 大町 TEL:082-831-6600

阿品土谷病院

〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
TEL:0829-36-5050(代)

大町土谷クリニック

〒731-0124 広島市安佐南区大町東二丁目8番35号
TEL:082-877-5588(代)

中島土谷クリニック

〒730-0811 広島市中区中島町6番1号
TEL:082-542-7272(代)

介護老人保健施設シエスタ

〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
TEL:0829-36-2080(代)

スタッフ募集

心豊かな医療を提供し、楽しく時間を共有しながらスキルアップに繋げるために、あかね会では、やる気のある方、経験豊富な方の募集を随時行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

土谷総合病院

検索



医療法人あかね会 本部事務局

〒730-0811 広島市中区中島町4番11号
TEL:082-245-9274
<http://www.tsuchiya-hp.jp>

2018年7月発行